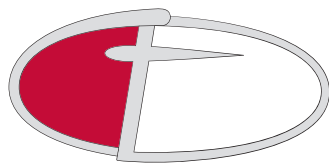


- ゐのはなの変遷
- 千葉大学医学部135年史年表
- 新ゐのはな同窓会館設立(千葉大学医学部
創立135周年記念)事業会名簿
- 資料提供, 編集等にご協力いただいた皆様



千葉大学医学部135周年記念誌出版委員会

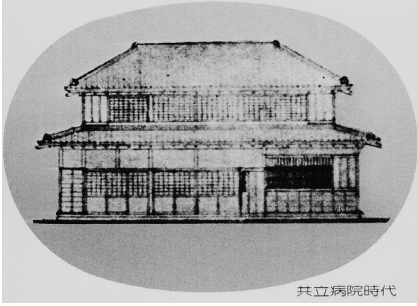
るのはなの変遷



千葉市鳥瞰図 1953年(昭和28年)頃 峰庫治画 加藤博仁氏所蔵

- 亥鼻以前 1874年(明治7年) - 1890年(明治23年)
- 亥鼻へ移転 1890年(明治23年)
- 千葉医学専門学校の際 1901年(明治34年) - 1923年(大正12年)
- 千葉医科大学の際 1923年(大正12年) - 1949年(昭和24年)
その1：矢作台へ
- 千葉医科大学の際 1923年(大正12年) - 1949年(昭和24年)
その2：旧病院(現医学部本館)建築～戦後
- 千葉大学医学部 1949年(昭和24年) -

亥鼻以前 1874年(明治7年)-1890年(明治23年)



共立病院時代

1 共立病院「千葉大学医学部
創立百周年記念絵葉書」より



2 (1)公立千葉病院 1876年
(明治9年)頃
(千葉市郷土博物館所蔵)



(2)第一高等学校医学部正門
1890年(明治23年)頃「千葉いまむかし
No.3 依田美狭古のアルバム」より転載



1882年(明治15年)4月測図「千葉県下総国千葉郡千葉市街図」(国土地理院所蔵)
左上のスケッチは千葉県庁正門



医学部の歴史は1874年(明治7年)共立病院創設に遡ります。場所は、現在の広小路交差点付近でした。

1876年(明治9年)には公立千葉病院に改称、現在の千葉地裁、キボール付近に移築され、医学教場が併設されました。1882年(明治15年)には県立千葉医学校と附属病院になり、1887年(明治20年)に医学校は官立の第一高等中学校医学部へ昇格し、病院は1888年(明治21年)に県立千葉病院となりました。

左頁の地図は1882年(明治15年)に作成されたものです。右頁の現在の地図を見ると、道路による街の区画があまり変わっていない様子がわかります。鉄道はまだ敷設されていません。都川は改修前で、流路が鋭角を示します。

1960年(昭和35年)、共立病院、公立千葉病院跡地付近に医学部創立85周年の記念標碑が建立されました。



1' 共立病院記念標碑 (院内公園内)



2' 公立千葉病院記念標碑(キボール前)



現在の千葉市街図 枠内が左図に対応

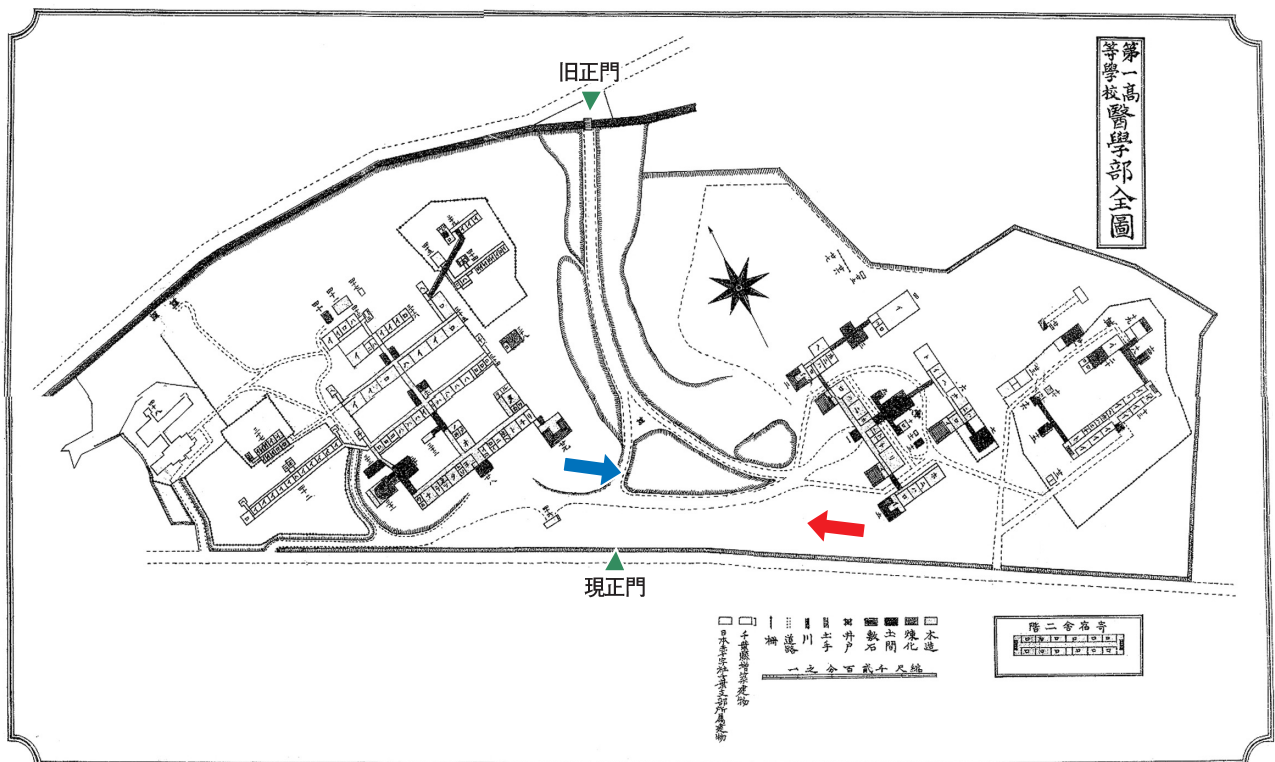
亥鼻へ移転 1890年(明治23年)

第一高等中学校医学部と県立千葉病院は、1890年(明治23年)亥鼻台へ移転しました。畑地だった亥鼻台に突如出現した立派な建築は、千葉町の名所として「千葉町繁栄の図」に描かれる等、一躍有名になりました。その後第一高等中学校医学部は1894年(明治27年)には第一高等学校医学部となりました。

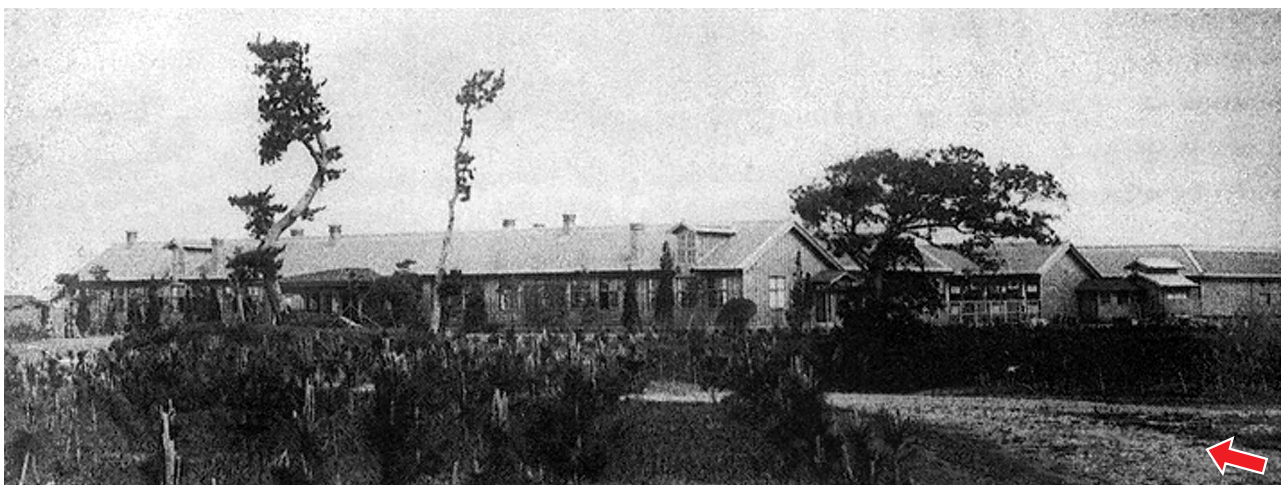
本頁中央の1900年(明治33年)「第一高等学校医学部全図」は、精緻な見取り図としては現存する最も古いものの一つです。現在の附属病院や連絡道路の敷地は取得前で、まだ造成されていません。

左右両頁下段にある2枚の写真は、1890年(明治23年)頃に撮影された完成直後の病院と医学部です。依田美狭古(1890年(明治23年)入校)により撮影されました。病院、医学部の建物付近には大きな樹木はまばらで、畑地の上に建てられた当時の様子が偲ばれます。

亥鼻の地では医学部移転に伴い学校、病院前の道路も整備されたようです。移転前の1881年(明治14年)作図された地形図(右頁上段の図)の旧東金街道(現在の正門前の道)は曲がりくねった里道で、現在(右頁中段の図)と比べると違いが明らかです。

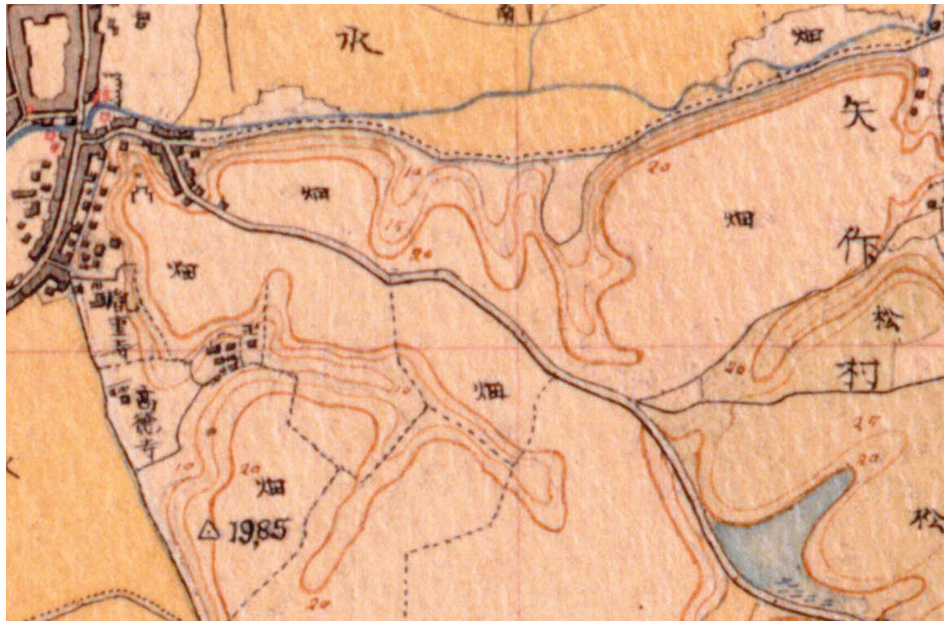


第一高等学校医学部全図 1900年(明治33年)12月 左側の建物群が県立千葉病院(現在の看護学部, 亥鼻地区総合教育研究棟付近), 右側の建物群が第一高等学校医学部(現在の医学部本館, 医薬系総合研究棟付近)。矢印は下の写真が撮られた方向を示す。「第一高等学校医学部一覧」(国立国会図書館所蔵)より

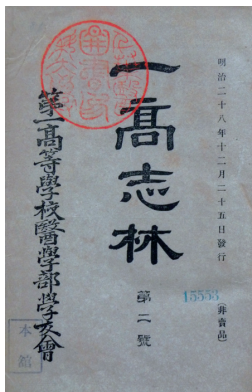
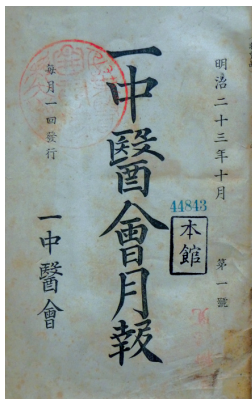


県立千葉病院 1890年(明治23年)頃 「千葉いまむかし No.3 依田美狭古のアルバム」より転載

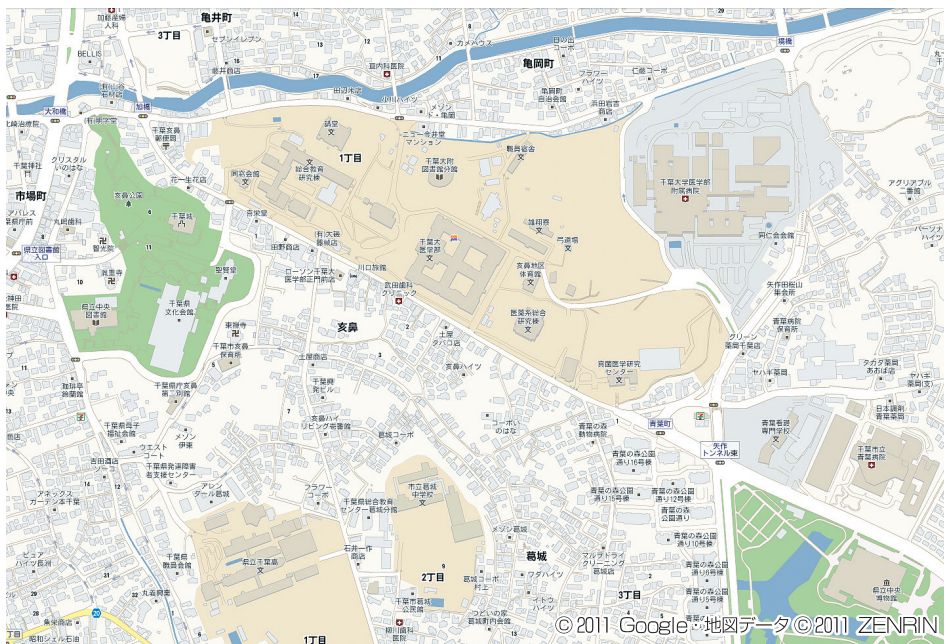
当時における医学部の様子は、1890年(明治23年)に創刊された「一中医会月報」と1895年(明治28年)創刊の「一高志林」(下の写真)、「第一高等中学校医学部一覽, 第一高等学校医学部一覽」(国立国会図書館所蔵)等の記述から推し測ることができます。



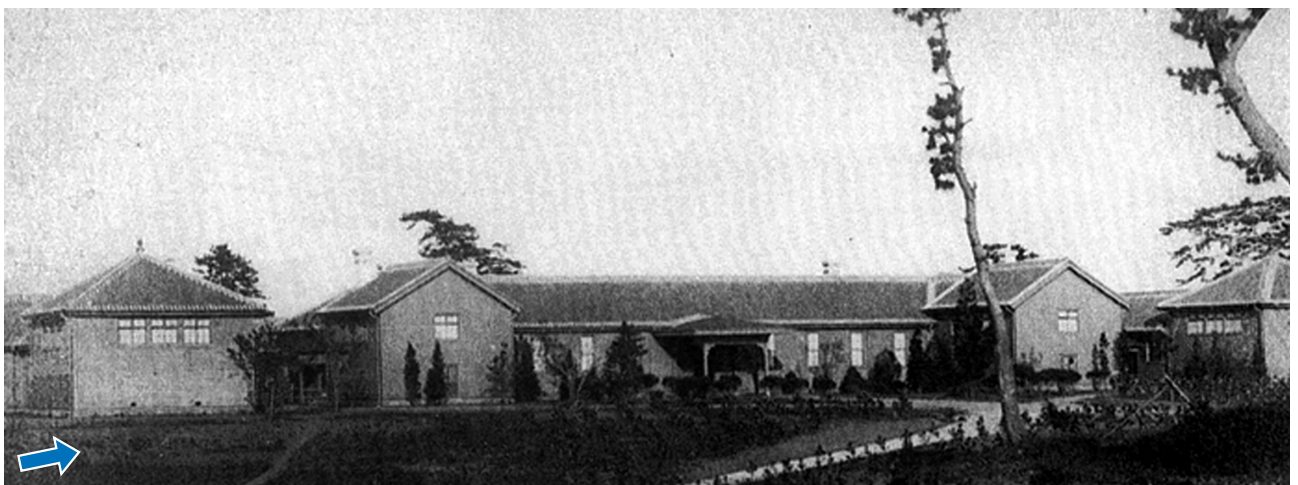
亥鼻周辺の地形図 1881年(明治14年)「迅速測図」(国土地理院所蔵)より



上: 1890年(明治23年)一中医会月報
下: 1895年(明治28年)一高志林
(千葉大学附属図書館亥鼻分館所蔵)



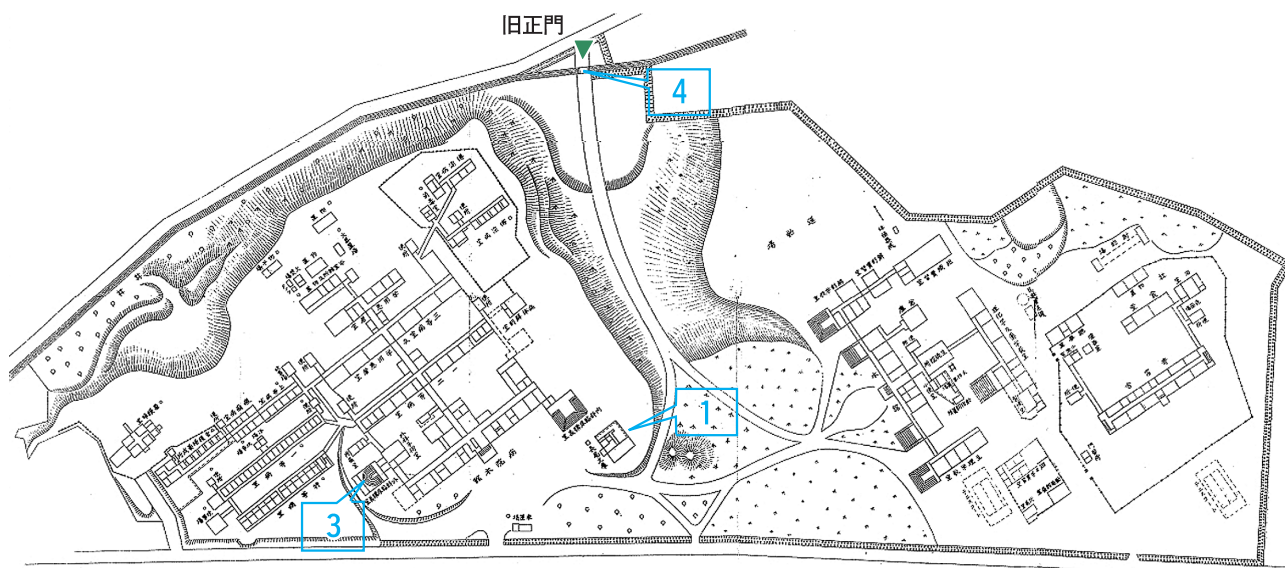
現在の千葉大学医学部周辺の地図



第一高等中学校医学部 1890年(明治23年)頃「千葉いまむかし No.3 依田美狭古のアルバム」より転載

千葉医学専門学校の頃 1901年(明治34年)-1923年(大正)

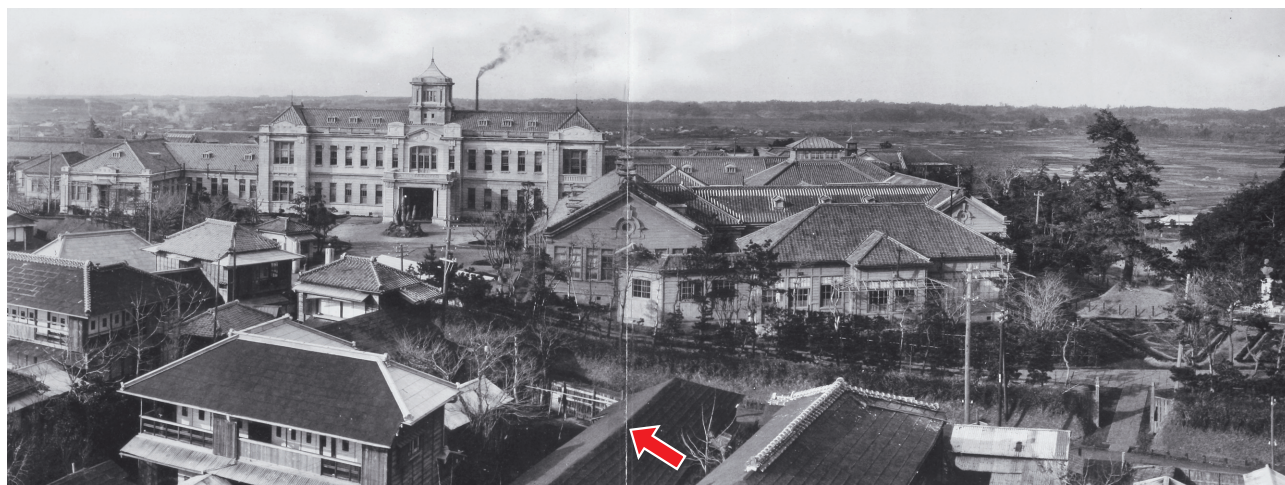
亥鼻に移転した第一高等学校医学部は、1901年(明治34年)に千葉医学専門学校と改称されました。一方、県立千葉病院の名称は、1922年(大正11年)に千葉医学専門学校附属医院となるまで続きます。



1908年(明治41年)千葉医学専門学校の図「千葉医学専門学校一覧」(国立国会図書館所蔵)より



1920年(大正9年)千葉医学専門学校の図 左側の建物群が県立千葉病院。右側の建物群が千葉医学専門学校。矢印は両頁下の写真が撮られた方向を示す。数字は右頁写真 [1] から [6] の位置を表す。「千葉医学専門学校一覧」(国立国会図書館所蔵)より

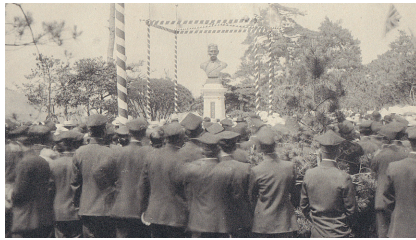


県立千葉病院全景 右端は荻生校長像。「1921年(大正10年)卒業アルバム」より

12年)



1 長尾文庫 「1909年(明治42年)卒業アルバム」より



2 荻生校長銅像除幕式 「1909年(明治42年)卒業アルバム」より



3 外科臨床講義室 「1909年(明治42年)卒業アルバム」より

1902年(明治35年)に長尾精一初代校長[公立千葉病院長時代1880年(明治13年)6月から1902年(明治35年)7月まで]の功績を称え、医学部図書館の前身である長尾文庫¹が開設されました。長尾文庫は一般に開放され地域図書館としての役割も備えていましたが、1910年(明治43年)に廃止され、蔵書は医学部図書室に移されました。

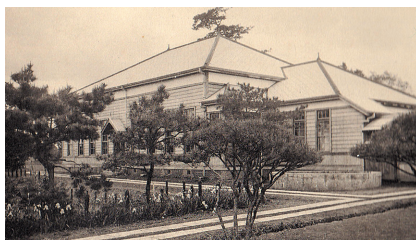
1909年(明治42年)に荻生録造二代校長[1902年(明治35年)から1914年(大正3年)まで]の在職25年を記念して銅像²が、続いて1911年(明治44年)には長尾前校長の銅像が建立されました。両校長の銅像は、1943年(昭和18年)戦時下の金属回収令により供出されるまで、医学生を亥鼻の地で見守り続けました。後の三輪徳寛三代校長[1914年(大正3年)から千葉医科大学長時代1924年(大正13年)まで]は1900年(明治33年)に完成した外科臨床講義室³の壁に外科医の心得「獅胆鷹目行以女手」を掲げました。

千葉医学専門学校の正門⁴は現在の北東側の門付近にありました。当時、都川と平行してキャンパス寄りを通る丹後堰用水と呼ばれる灌漑用水があり、これを渡って学校へと上る坂が続いています。学校の建物は1914年(大正3年)に講堂⁵、1919年(大正8年)には薬学校舎⁶が新たに建築されますが、本館など初期の建物はそのままの姿で医学生教育の礎となりました。右頁下の写真は1921年(大正10年)頃の医学部全景です。

県立千葉病院は1914年(大正3年)に大規模な増改築工事が完了し、病院本館は2階建ての威容を誇る建物に変わりました(左頁下の写真)。左頁中央1920年(大正9年)の図面から、敷地一杯に建物が建ち並んだ様子が窺えます。その後、大学昇格の準備として1922年(大正11年)には千葉医学専門学校附属医院と改称されました。



4 学校正門 「1909年(明治42年)卒業アルバム」より



5 講堂 「1917年(大正6年)卒業アルバム」より



6 薬学校舎 「1919年(大正8年)卒業アルバム」より



千葉医学専門学校全景 左奥は建築中の解剖学教室。その前は長尾校長像。「1921年(大正10年)卒業アルバム」より

千葉医科大学の頃 1923年(大正12年) - 1949年(昭和24年)

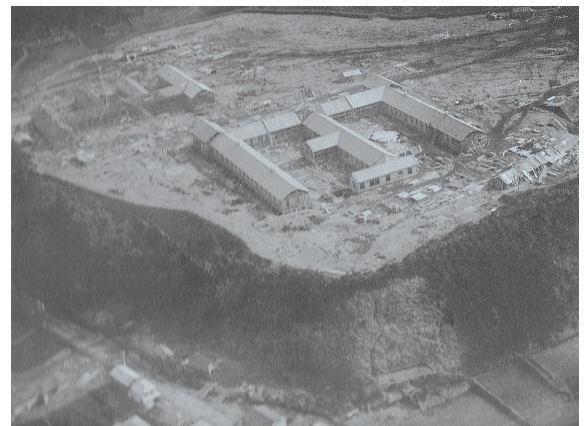
千葉医科大学に昇格した1923年(大正12年)には、隣接する都町矢作(やはぎ)の地を造成し、医科大学の基礎教室の校舎が次々に建設されました。この年初めて、図面にも矢作の地が書き加えられました。亥鼻と矢作を結ぶ連絡道路もこの頃整備されました。その後、現在の運動場、駐車場の敷地と合わせ、今日の千葉大学亥鼻キャンパスの輪郭が完成しました。



1923年(大正12年)千葉医科大学の図 この年、右上の基礎教室校舎の造営が始まり、矢作台の土地が別葉で図面に収録された。矢印は右の航空写真が撮られた方向を示す。「千葉医科大学一覽」(国立国会図書館所蔵)より

右の写真は基礎教室校舎建設中の航空写真です。現在の附属病院の北西面が断崖絶壁であった様子が良く解ります。1927年(昭和2年)には医科大学本館(右頁中の写真)が完成しました。

両頁下にある3枚の写真は、1927年(昭和2年)頃の亥鼻の全景です。左の写真は千葉医科大学附属医院、中央の写真は旧基礎教室校舎[1](右頁上の図)、薬学校舎[2]、伝染病棟[3]、関東大震災後新たに建設された精神科病棟[4]、看護婦寄宿舍[5]の建物群、右の写真は新築造営された基礎教室校舎の全景です。



矢作台に建設中の基礎教室 手前は医化学教室,生理学教室,薬理学教室で,左側奥に見えるのは解剖学教室。「1924年(大正13年)卒業アルバム」より



1928年(昭和3年) 附属医院 「1928年(昭和3年)卒業アルバム」より

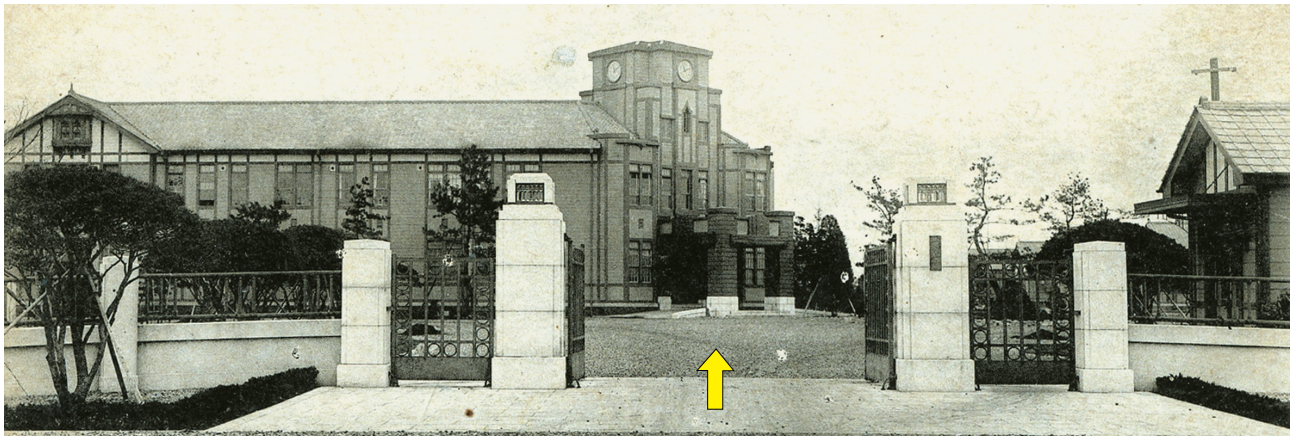


1928年(昭和3年)旧基礎教室付近

その1：矢作台へ



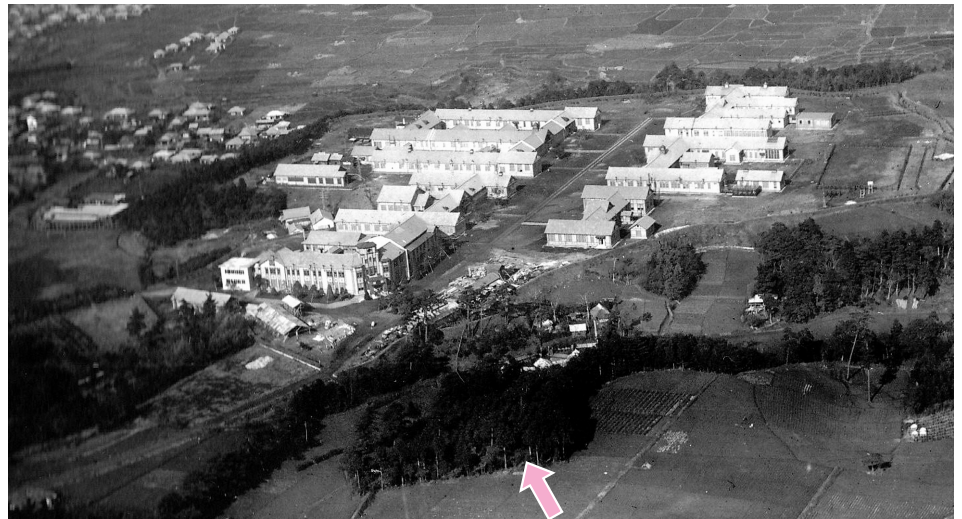
1926年(大正15年)千葉医科大学の図 矢印は下の写真が撮られた方向を示す。数字□1～□5は本文参照。「千葉医科大学一覧」(国立国会図書館所蔵)より



千葉医科大学本館 1927年(昭和2年)落成。「同仁会 絵葉書」(柏木崇人氏提供)より



「1928年(昭和3年)卒業アルバム」より

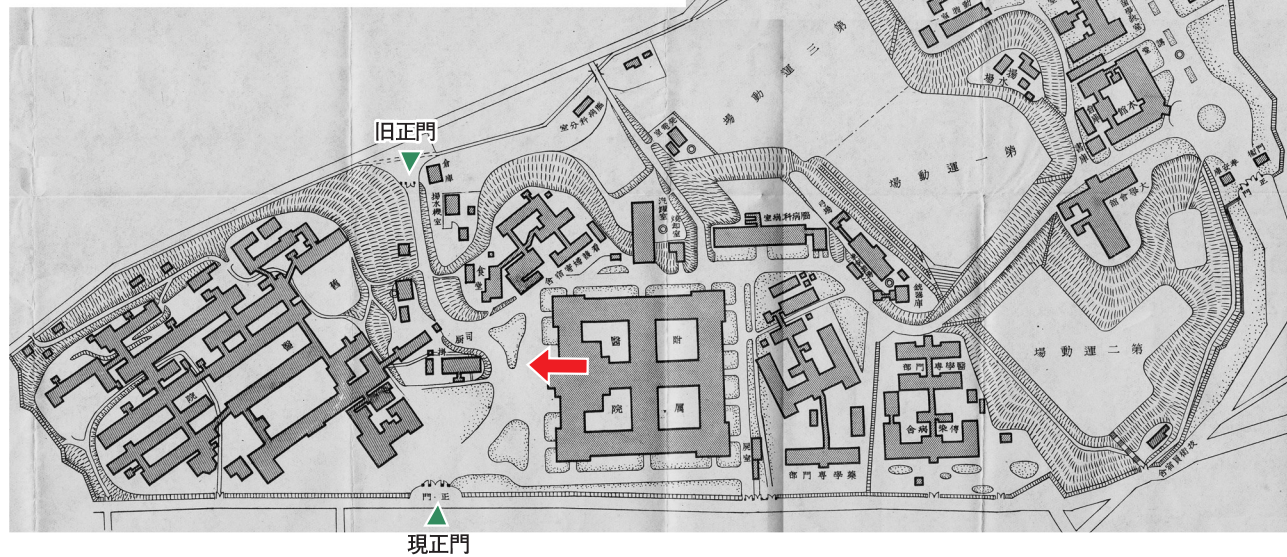


1928年(昭和3年) 千葉医科大学 「1928年(昭和3年)卒業アルバム」より

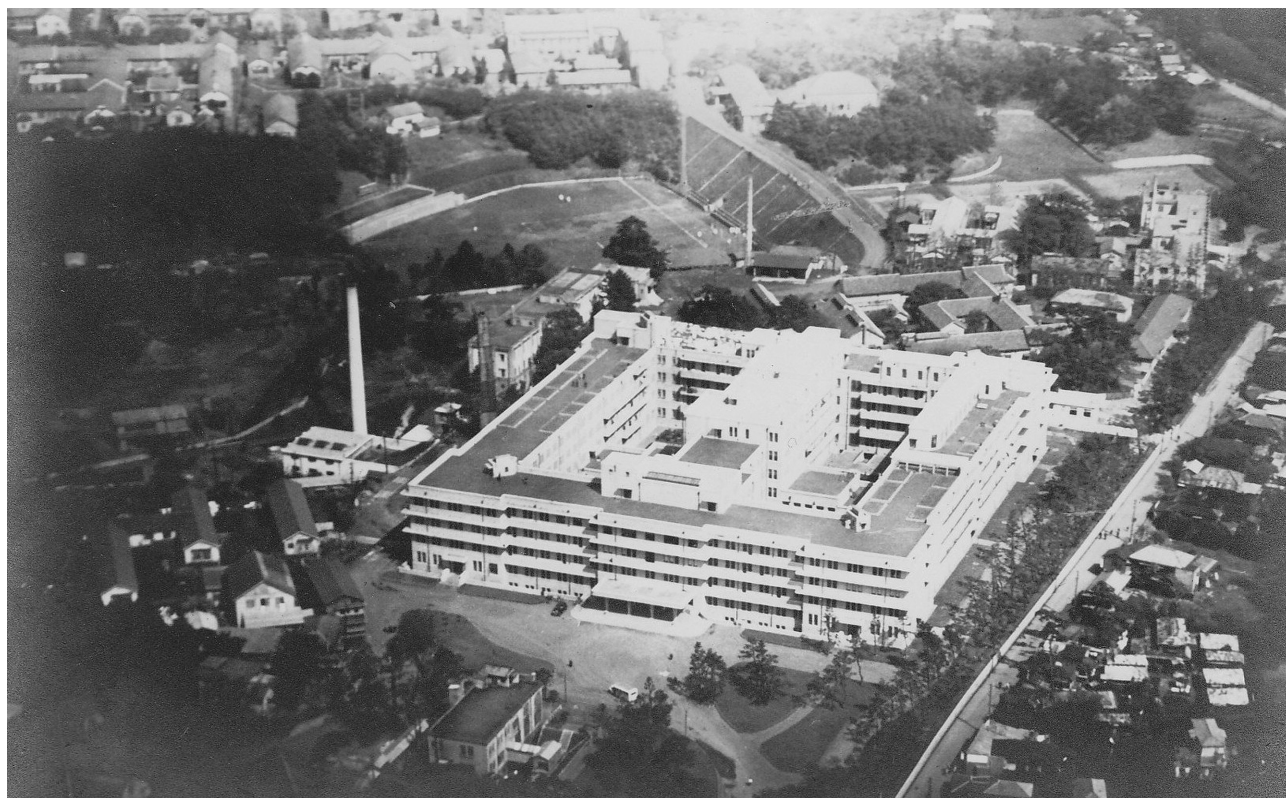
千葉医科大学の頃 1923年(大正12年) - 1949年(昭和24年)

千葉医科大学となった1923年(大正12年)は関東大震災の年でもありました。この震災で大きな被害を受けた病室もあり、この後に建設される新病院の設計にも大きな影響を与えました。そして、基礎校舎の建設が一段落した1931年(昭和6年)に、旧基礎校舎跡を新病院の用地として建設に着手しました。

千葉医科大学附属医院の新館は1937年(昭和12年)に完成しました。設備には、往時のドイツ医学の粋を集め、東洋一の病院と称せられました。この頑強な建物の建築には、着工から完成までに6年の歳月が費やされました。

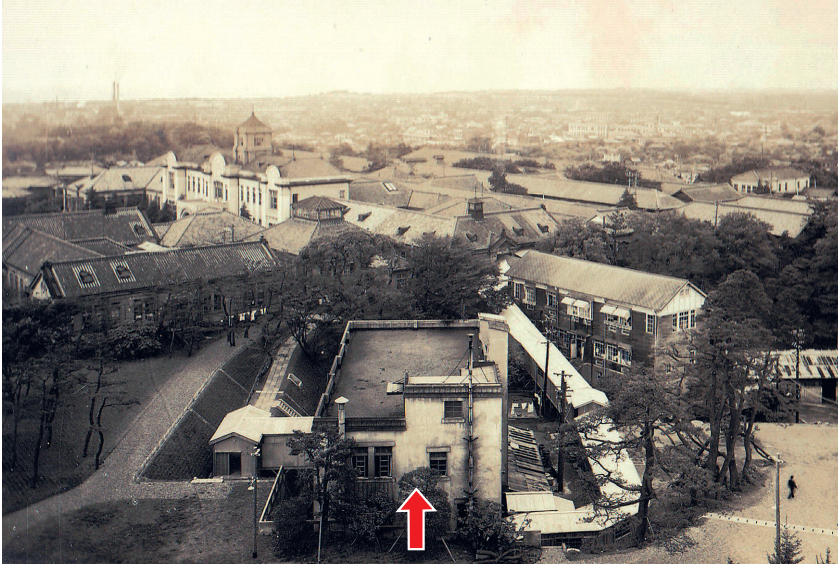


1942年(昭和17年)千葉医科大学構内建物配置図 矢印は右頁左上の写真が撮られた方向を示す。「千葉医科大学一覽」より



新築された千葉医科大学附属医院 1937年(昭和12年)頃 左上は千葉医科大学。これに向かう連絡道路の左右には運動場も整備されている。(千葉大学医学部附属病院所蔵)

その2：旧病院(現医学部本館)建築～戦後



新附属医院より旧医院を望む 1938年(昭和13年)「佐々内科教室アルバム」より



千葉医科大学本館の夜景「1941年(昭和16年)卒業アルバム」より

千葉医科大学附属医院は鉄筋コンクリート5階建て、間口102メートル、奥行きは109メートルのほぼ正方形で、田の字の形をしています。外壁はクリーム色化粧煉瓦で、堂々とした建築です。現在は医学部本館として使われています。

1941年(昭和16年)に始まった太平洋戦争以降、ますます激化する戦争は、市民生活にも大きな影響を及ぼします。千葉医科大学は1945年(昭和20年)の度重なる空襲により、木造建築であった矢作台の基礎教室、旧附属医院(上左の写真)のほとんどを焼失しました。しかし、新附属医院は戦争時にも被害を受けずに被災者救護にあたることができました。

焼失した矢作台の基礎教室は戦後すぐに仮建築が進められました。下の写真は終戦後3年の1948年(昭和23年)に撮影されましたが、矢作台の基礎教室跡に仮教室が見えます。

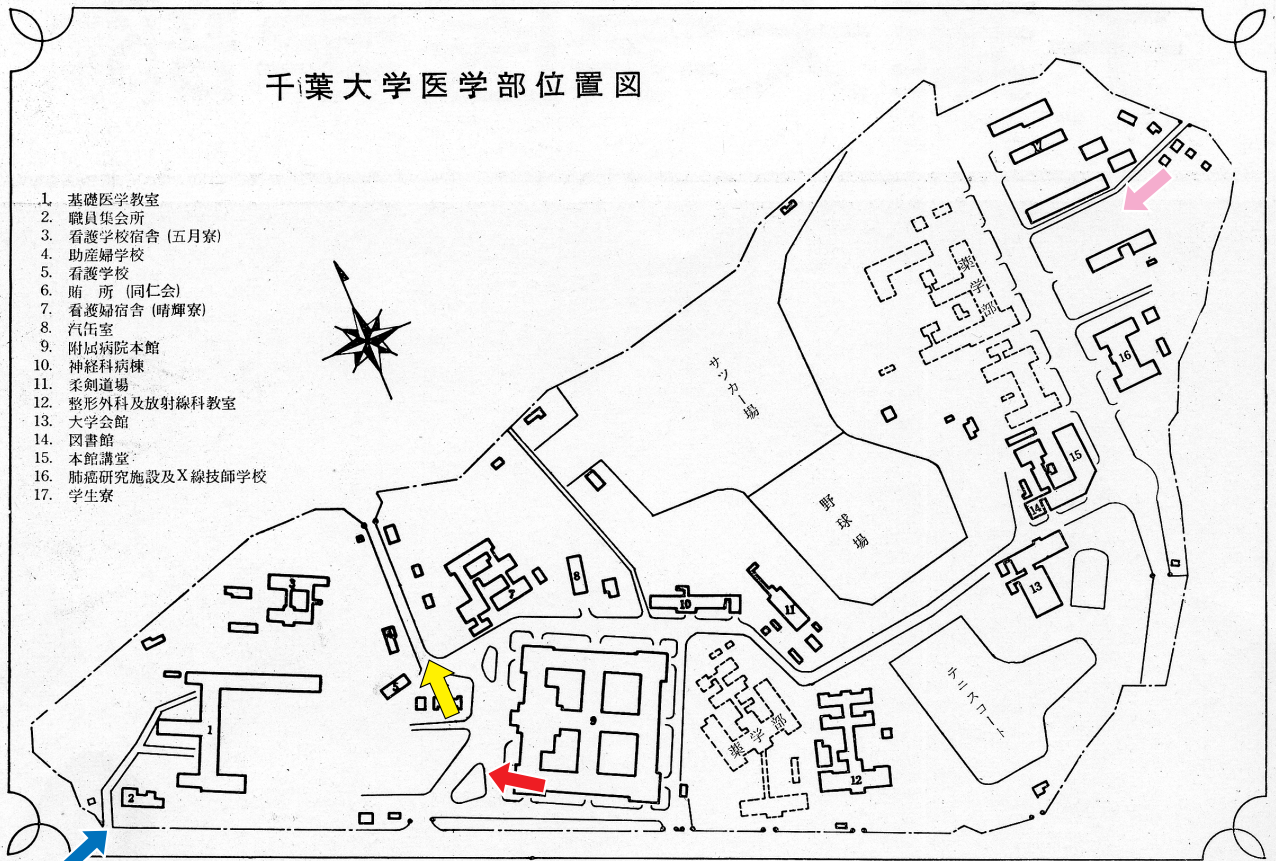
なお、本館(上右の写真)は焼失を免れ、1949年(昭和24年)千葉大学発足後には、しばらくの間大学本部が置かれました。



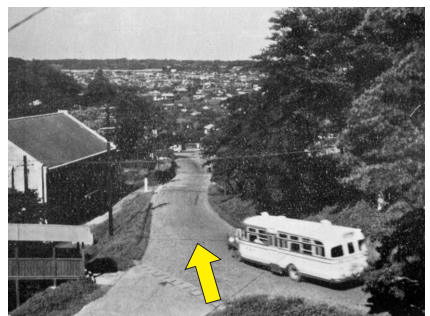
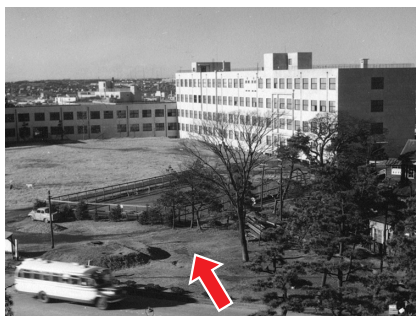
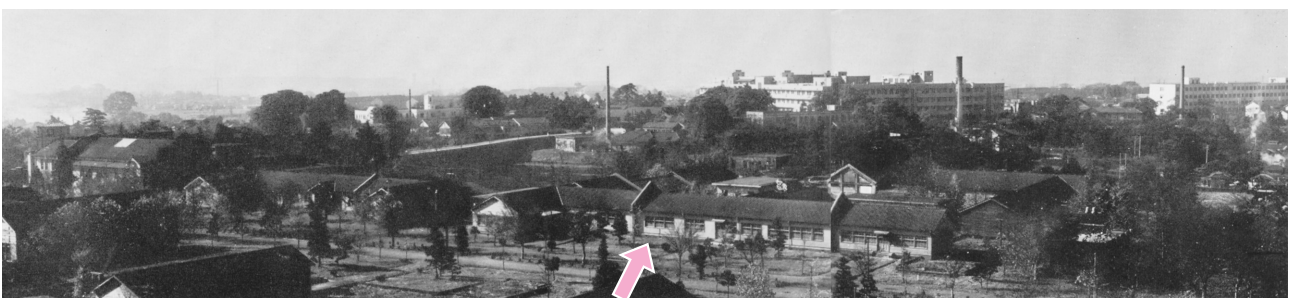
米軍撮影航空写真 1948年(昭和23年) 基礎教室の仮建築(右上)が一部建てられている。中央に残るのは新附属医院。旧附属医院跡(左下)は更地に近い。(国土地理院所蔵)

千葉大学医学部 1949年(昭和24年)-

1949年(昭和24年)国立学校設置法により千葉大学が設立されました。千葉医科大学は千葉大学亥鼻地区の医学部と附属病院になりました。その後、1959年(昭和34年)には旧千葉医科大学附属医院跡に建設された基礎医学教室新館が完成し全科が移転しました(下段中央の写真)。同年は医学部創立85周年にあたります。翌1960年(昭和35年)には記念式典等がおこなわれ、1964年(昭和39年)に記念講堂が竣工しました。



1960年(昭和35年)千葉大学医学部位置図 左下の建物が基礎医学教室新館。点線の建物は西千葉地区に移転前の薬学部。矢印は下の写真が撮られた方向を示す。「創立八十五周年記念写真集」より



1960年(昭和35年)頃のキャンパス 上段:連絡道路にまだ桜の木はなく、その先に附属病院、基礎新館が望まれる。下段:左から、西門と旧なのはな同窓会館(職員集会所)、基礎新館、旧正門。当時、医学部構内を路線バスが走っていた。「創立八十五周年記念写真集」より

医学部附属病院は、1978年(昭和52年)に旧千葉医科大学基礎教室跡に新病院を建設(下中央段左の写真)、移転し、次いで2008年(平成20年)には新病棟が建設されました(中央段右の写真)。旧附属病院の建物は1980年(昭和55年)に医学部本館となり、現在に至っています(下段右の写真)。

上段の航空写真は2008年10月現在の亥鼻地区です。連絡道路と両脇にある運動場、現医学部本館などは千葉医科大学当時の姿をとどめています。2004年(平成16年)には医薬系総合研究棟(下段左の写真)が建設され、2011年度内には第二棟が完成し、薬学部も西千葉地区から完全移転します。こうして千葉大学亥鼻地区には医・薬・看の医療系学部が集まり、歴史に培われながら、新たな時代に向かい歩み始めています。



2008年(平成20年)10月現在の医学部(中央)と附属病院(右上)全景



1978年(昭和52年)新築落成時の附属病院



2008年(平成20年)附属病院新病棟竣工

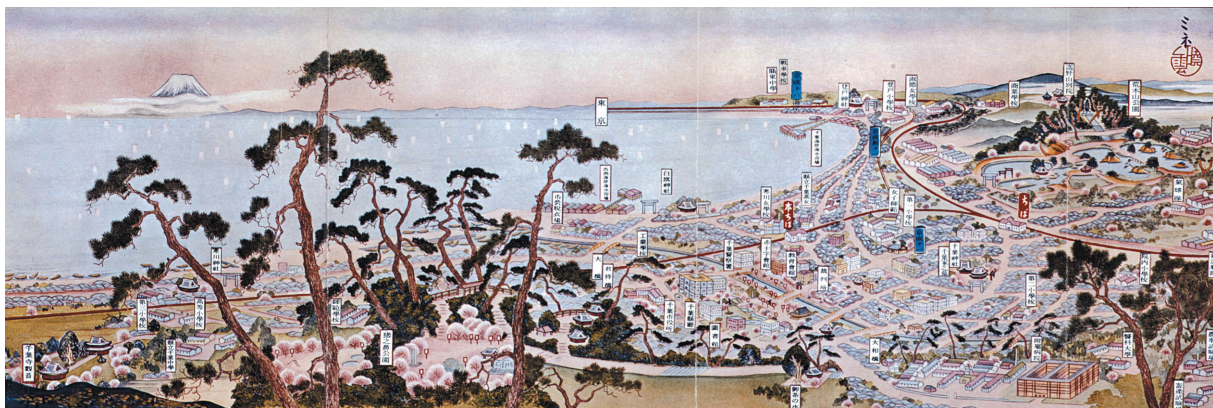


2004年(平成16年)医薬系総合研究棟第一期竣工



2010年(平成22年)4月現在の医学部本館

千葉大学医学部135年史年表



千葉市街鳥瞰図 1936年(昭和11年)頃 峰庫治画 和田博夫氏所蔵

千葉大学医学部135年史年表

| 西暦 | 和暦 | 学 内 | 県 内・国 内・国 外 |
|------|----|---|--|
| 1865 | 1 | | ○ベルナールが「実験医学研究序説」を出版 |
| 1866 | 2 | | ○ノーベルがダイナマイトを発明 ○薩長同盟締結 |
| 1867 | 3 | | ○大政奉還・王政復古 |
| 1868 | 1 | | ○戊辰戦争 ○市川・船橋戦争 ○明治維新 ○近藤勇が流山で官軍に捕られる |
| 1869 | 2 | | ○メンデレーエフが元素の周期表を作成 |
| 1870 | 3 | | ○パスツールとコッホが病原菌説を確立 |
| 1871 | 4 | | ○廃藩置県 |
| 1872 | 5 | | ○学制公布 ○太陽暦採用 |
| 1873 | 6 | | ○千葉町に県庁設置 ○初代官選県令に柴原和就任 |
| 1874 | 7 | (7月) 千葉町、寒川村、登戸村の有志の醸金により千葉町本町1丁目に共立病院が設立された。(現在の院内公園、千葉神社付近) | ○自由民権運動が始まる |
| 1876 | 9 | (10月) 共立病院は千葉町吾妻町三丁目に新築移転し、公立千葉病院と改称され、医学教場が付設された。(現在の千葉地裁、キボール付近) | ○ベルが電話を発明 |
| 1877 | 10 | | ○英領インド帝国成立 ○西南戦争 |
| 1880 | 13 | | ○第2代県令(1886年から県知事)に船越衛就任 |
| 1881 | 14 | | ○板垣退助が自由党結成 |
| 1882 | 15 | (7月) 改組により県立千葉医学校及び附属病院が設置された。 | ○大隈重信が立憲改進黨結成 |
| 1887 | 20 | (4月) 医学校内に貧窮患者救済会(同仁会の前身)が設置された。 (9月) 高等中学校令の施行に伴い県立千葉医学校は官立に移管されて第一高等中学校医学部となった。 | |
| 1888 | 21 | (3月) 県立千葉医学校附属病院が県立千葉病院と改称された。 | |
| 1889 | 22 | (9月) 医学部と県立千葉病院が亥鼻台に新営着工された。 | ○明治憲法公布 ○エッフェル塔完成 |
| 1890 | 23 | (7月) 薬学科が設置された。 (10月) 卒業生の機関紙「一中医学会月報」が創刊された。 (11月) 医学部と県立千葉病院の新営工事が9月に完成し、亥鼻台の現在位置に移転した。 | ○ベーリングと北里柴三郎が破傷風とジフテリアの血清療法を開発 ○第一回帝国議会開催 |
| 1894 | 27 | (7月) 高等学校令の施行に伴い第一高等学校医学部となった。 | ○日清戦争 ○志賀潔が赤痢菌を発見 |
| 1895 | 28 | (7月) 医学部学友会機関紙「一高志林」(現在の千葉医学雑誌)が創刊された。 | ○レントゲンがX線を発見 ○日清講和条約調印 |
| 1896 | 29 | | ○オリンピック第1回アテネ大会 |
| 1897 | 30 | | ○ホフマンがアセチルサリチル酸(アスピリン)合成 |
| 1899 | 32 | | ○ヨーロッパ各国によるアフリカ植民地分割が終わる |
| 1900 | 33 | | ○オリンピック第2回パリ大会 ○プランクが量子論を唱える |
| 1901 | 34 | (4月) 千葉医学専門学校と改称した。 | |
| 1902 | 35 | (4月) 長尾文庫(図書館の前身)が開設された。 | ○日英同盟調印 |
| 1903 | 36 | | ○ライト兄弟が世界初飛行に成功 |
| 1904 | 37 | | ○日露戦争 ○オリンピック第3回セントルイス大会 |
| 1905 | 38 | | ○アインシュタインが特殊相対性理論、光子仮説を唱える ○ポーツマス講和条約調印 |
| 1906 | 39 | | ○オリンピック特別アテネ大会 ○千葉町に電灯がつく |

| 西暦 | 和暦 | 学 内 | 県 内・国 内・国 外 |
|------|----|--|--|
| 1908 | 41 | | ○オリンピック第4回ロンドン大会 |
| 1909 | 42 | (5月) 荻生録造の胸像が建立された。 | |
| 1910 | 43 | | ○エールリヒと秦佐八郎がサルバルサンを合成 ○日韓併合 |
| 1911 | 44 | (5月) 長尾精一の胸像が建立された。 (11月) 辛亥革命の被害者救護のため、清国留学生を一時帰国させた(中国紅十字隊)。 | ○辛亥革命 |
| 1912 | 1 | (11月) 辛亥革命紅十字隊記念碑が建立された。 | ○オリンピック第5回ストックホルム大会(日本初参加) |
| 1914 | 3 | | ○第一次世界大戦が始まる |
| 1915 | 4 | (12月) 千葉医学専門学校奨学会が発足した。 | |
| 1916 | 5 | | ○オリンピック第6回ベルリン大会(中止) |
| 1918 | 7 | | ○第一次世界大戦が終結する |
| 1919 | 8 | | ○ベルサイユ条約調印 |
| 1920 | 9 | (11月) 千葉医学専門学校奨学会が財団法人猪之鼻奨学会と改称した。 | ○国際連盟発足 ○オリンピック第7回アントワープ大会 |
| 1921 | 10 | | ○千葉市が市制施行する |
| 1922 | 11 | (4月) 県立千葉病院が千葉医学専門学校附属医院となった。看護婦講習所、産婆講習所が設置された。 (11月) 千葉医学会が発足した。 | |
| 1923 | 12 | (4月) 官立医科大学官制改正により千葉医学専門学校は千葉医科大学に昇格した。基礎8教授(解剖学, 生理学, 医化学, 細菌学, 薬物学, 病理学, 衛生学, 法医学) 臨床11教授(内科学(2), 外科学(3), 産婦人科学, 眼科学, 耳鼻咽喉科学, 皮膚泌尿器科学, 小児科学, 精神病学), 入学定員60名・修業年限4年。同時に千葉医学専門学校附属医院は、千葉医科大学附属医院と改称された。また、千葉医科大学附属医院専門部と附属薬学専門部が置かれた。隣接する都町矢作に基礎教室, 本部大講堂等が, 建設着工された。貧窮患者救済会が財団法人救済会に改組した。 | ○関東大震災 |
| 1924 | 13 | | ○オリンピック第8回パリ大会 ○冬季オリンピック第1回シャモニー大会 |
| 1925 | 14 | (3月) 千葉医科大学附属医学専門部が廃止された。 | ○治安維持法 普通選挙法が成立 |
| 1926 | 15 | (9月) 千葉医科大学に附属図書館が設置された。 | |
| 1927 | 2 | (9月) 安房郡勝山町有志より敷地511坪の寄付を受けた。 (11月) 千葉医科大学本館が完成した。 | |
| 1928 | 3 | | ○オリンピック第9回アムステルダム大会 ○冬季オリンピック第2回サンモリッツ大会(日本初参加) ○フレミングがペニシリンを発見 |
| 1929 | 4 | (10月) 千葉医科大学同窓会が発足した。 | ○世界大恐慌が始まる |
| 1930 | 5 | (2月) 山梨県山中湖畔に, 救済会が7,802坪の敷地を取得した。 (4月) 千葉医科大学の入学定員が80名となった。 | ○ロンドン軍縮会議 |
| 1931 | 6 | (4月) 旧医学専門学校跡に附属医院新館が建設着工された。 (12月) 財団法人救済会が財団法人千葉医科大学附属医院同仁会に改組した。 | ○満州事変 |
| 1932 | 7 | | ○オリンピック第10回ロサンゼルス大会 ○冬季オリンピック第3回レークプラシッド大会 ○5.15事件 |
| 1933 | 8 | | ○ドイツのヒトラー内閣が成立 ○日本が国際連盟を脱退する |
| 1936 | 11 | | ○オリンピック第11回ベルリン大会 ○冬季オリンピック第4回ガルミッシュ・パルテンキルヒェン大会 ○2.26事件 |

| 西暦 | 和暦 | 学 内 | 県 内・国 内・国 外 |
|------|------|--|--|
| 1937 | 12 | (8月) 附属医院新館が完成し移転した。 | ○日中戦争が始まる ○日独伊防共協定調印 |
| 1939 | 14 | (5月) 千葉医科大学臨時附属医学専門部が設置された。 | ○第二次世界大戦が始まる |
| 1940 | 15 | (7月) 「みのはな会」と「千葉医科大学同窓会」とが合同し、「千葉医科大学みのはな同窓会」となる。 | ○オリンピック第12回東京、ヘルシンキ大会(中止) ○冬季オリンピック第5回札幌、サンモリッツ、ガルミッシュ・パルテンキルヒェン大会(中止) ○日独伊三国同盟が成立 |
| 1941 | 16 | | ○太平洋戦争が始まる |
| 1942 | 17 | | ○ミッドウェー海戦 |
| 1943 | 18 | (7月) 戦時下の金属回収令により、長尾精一、荻生録造の銅像を供出した。 | |
| 1944 | 19 | (4月) 千葉医科大学臨時附属医学専門部が千葉医科大学附属医学専門部と改称した。 | ○オリンピック第13回ロンドン大会(中止) ○冬季オリンピック第5回コルティナー・ダンベッツォ大会(中止) |
| 1945 | 昭 20 | (4月) 千葉医科大学附属医院厚生女学部が設置された。 | ○国際連合設立 ○東京大空襲、千葉空襲、銚子空襲 ○広島、長崎へ原子爆弾投下 ○日本がポツダム宣言受諾 降伏文書調印 |
| 1946 | 21 | (9月) 千葉医科大学に附属腐敗研究所が設置された。 | ○日本国憲法公布 |
| 1947 | 22 | | ○日本国憲法施行 地方自治法成立 ○初代民選千葉県知事に川口為之助就任 |
| 1948 | 23 | (7月) 千葉大学設置認可申請時に基礎12講座、臨床12講座が認可申請された。 | ○オリンピック第14回ロンドン大会 ○冬季オリンピック第5回サンモリッツ大会 ○世界人権宣言 ○インドのガンジー暗殺 |
| 1949 | 24 | (5月) 国立学校設置法が公布され、千葉大学が設置された。千葉医科大学を母体として医学部が置かれ、同時に千葉医科大学附属医院は医学部附属病院となった。発足時は、基礎11講座(解剖学第一、解剖学第二、解剖学第三、生理学、医化学、細菌学、薬理学、病理学第一、病理学第二、衛生学、法医学)、臨床10講座(内科学第一、内科学第二、外科学第一、外科学第二、整形外科学、産婦人科学、眼科学、皮膚泌尿器科学、小児科学、精神病学)。薬学部、腐敗研究所が設置された。 | ○中華人民共和国が成立し毛沢東が主席となる ○ガモフが宇宙のビッグバン理論を唱える ○湯川英樹ノーベル物理学賞受賞 |
| 1950 | 25 | | ○朝鮮戦争 ○金閣寺焼失 ○第2代千葉県知事に柴田等就任 |
| 1951 | 26 | (1月) 同窓会館が竣工した。 (4月) 医学専門課程が置かれた。厚生女学部が附属看護学校となった。 | ○サンフランシスコ講和条約・日米安全保障条約締結 |
| 1952 | 27 | (10月) 生理学第二講座が設置された。 | ○オリンピック第15回ヘルシンキ大会 ○冬季オリンピック第6回オスロ大会 ○ソークが小児麻痺(ポリオ)ワクチン開発 |
| 1953 | 28 | (4月) 公衆衛生学講座が設置された。 | ○ワトソン、クリックがDNA二重らせん構造を発見 ○NHKテレビ放送開始 ○川崎製鉄千葉製鉄所操業開始 |
| 1954 | 和 29 | (4月) 整形外科学講座、放射線医学講座が設置された。 (12月) 財団法人千葉大学医学部附属病院同仁会が財団法人同仁会と改称した。 | ○第五福竜丸、ビキニ水爆被災 ○防衛庁・自衛隊ができる。 |
| 1955 | 30 | (4月) 医学進学課程が設置された。大学院医学研究科(博士課程)が設置された。 | ○広島で第一回原水爆禁止世界大会開催 |
| 1956 | 31 | (4月) 医動物学講座が設置された。 | ○オリンピック第16回メルボルン・ストックホルム大会 ○冬季オリンピック第7回コルティナー・ダンベッツォ大会 |
| 1957 | 32 | (4月) 附属診療エックス線技師学校が設置された。 | ○国民健康保険法公布 ○東京電力千葉火力発電所の操業開始 |
| 1958 | 33 | (4月) 附属助産婦学校が設置された。 | ○東京タワー完成 |
| 1959 | 34 | (3月) 医学部基礎新館が竣工し、9月に移転した。 (4月) 附属肺がん研究施設(臨床研究部)が設置された。 | |

| 西暦 | 和暦 | 学 内 | 県 内・国 内・国 外 |
|------|----|--|---|
| 1960 | 35 | (4月) 泌尿器科学講座が設置された。医動物学講座が寄生虫学講座と改称された。 (10月) 創立85周年記念標(院内公園 [共立病院] および吾妻町公園 [公立千葉病院]) が建立された。 (11月) 創立85周年記念碑(長尾精一像, 荻生録造像を青銅レリーフとして復刻) が建立された。 | ○オリンピック第17回ローマ大会 ○冬季オリンピック第8回スコパレー大会 ○初の有人宇宙飛行(ソ連, ボストーク1号) ○日米新安全保障条約発効 ○安保反対闘争起こる ○社会党浅沼稲次郎委員長刺殺さる |
| 1962 | 37 | (4月) 歯科口腔外科学講座が設置された。 | ○第3代県知事に加納久朗就任 |
| 1963 | 38 | | ○アメリカ大統領ケネディ暗殺 ○第4代県知事に友納武人就任 |
| 1964 | 39 | (3月) 記念講堂が竣工した。 (4月) 附属農山村医学研究施設(農山村予防医学研究部) が設置された。麻酔学講座が設置された。 | ○オリンピック第18回東京大会 ○冬季オリンピック第9回インスブルック大会 ○東海道新幹線開通 |
| 1965 | 40 | (4月) 入学定員20名増加し, 定員が100名となった。附属肺癌研究施設に病理研究部が設置された。 | ○アメリカ, 北ベトナム爆撃開始 ○朝永振一郎ノーベル物理学賞受賞 |
| 1966 | 41 | (4月) 附属脳機能研究施設(向神経薬研究部) が設置された。附属診療エックス線技師学校上級課程が設置された。 (7月) 薬学部が西千葉へ移転した。 | ○中国で文化大革命始まる ○全日空機羽田沖墜落など航空機事故多発 ○新東京国際空港建設決定 ○三里塚闘争始まる ○千葉ニュータウンの造成が始まる |
| 1967 | 42 | (4月) 生化学第二講座が設置された。 | ○世界初の心臓移植がケープタウンで行われる ○夏の甲子園第49回大会で県立習志野高校が優勝 |
| 1968 | 43 | (4月) 附属肺癌研究施設に第二臨床研究部が設置された。 | ○オリンピック第19回メキシコシティ大会 ○冬季オリンピック第10回グルノーブル大会 ○米国でX線CT装置が開発される ○川端康成ノーベル文学賞受賞 ○インターン制度廃止 ○三億円強奪事件 ○全共闘運動で大学紛争本格化 ○成田, 海浜ニュータウンの造成始まる |
| 1969 | 44 | (4月) 附属診療エックス線技師学校が附属診療放射線技師学校に改組された。 | ○人類が初めて月面に立つ(米国アポロ11号) ○東大安田講堂事件 |
| 1970 | 45 | (4月) 脳神経外科学講座が設置された。 | ○日本万国博覧会(大阪万博) 開催 ○三島由紀夫が割腹自殺 ○日航機「よど号」のつとり事件 |
| 1971 | 46 | (3月) 附属図書館支鼻分館が設置された。 | ○中国が国連に加盟 ○全日空機零石衝突事故 |
| 1972 | 47 | | ○オリンピック第20回ミュンヘン大会 ○冬季オリンピック第11回札幌大会 ○日中国交正常化 ○沖縄県復帰 ○浅間山荘事件 |
| 1973 | 48 | | ○第4次中東戦争 オイルショック ○ベトナム和平協定 ○金大中事件 ○ラウターバーが核磁器共鳴画像法を発表 ○江崎玲於奈ノーベル物理学賞受賞 |
| 1974 | 49 | (4月) 内科学第三講座が設置された。入学定員20名増加し, 定員が120名になった。附属農山村医学研究施設が附属環境疫学研究施設(農村医学研究部及び免疫研究部) に改組された。 | ○ウォーターゲート事件でニクソン米大統領が辞任 ○佐藤栄作ノーベル平和賞受賞 ○長嶋茂雄(佐倉高校出身) プロ野球現役引退 ○夏の甲子園第56回大会で県立銚子商業高校が優勝 |
| 1975 | 50 | (4月) 看護学部が設置された。 | ○ベトナム戦争終結 ○米アシロマ会議で遺伝子組換えのガイドライン議論 ○第5代県知事に川上紀一就任 ○夏の甲子園第57回大会で県立習志野高校が優勝 |
| 1976 | 51 | | ○オリンピック第21回モントリオール大会 ○冬季オリンピック第12回インスブルック大会 ○ロッキード事件 |
| 1977 | 52 | (4月) 附属脳機能研究施設に神経内科研究部が設置された。 | ○王貞治がホームラン756号世界新記録 |
| 1978 | 53 | (2月) 新附属病院が竣工し移転した。 (4月) 附属動物実験施設が設置された。 | ○日中平和友好条約調印 ○成田新国際空港が開港 |
| 1979 | 54 | (4月) 向神経薬研究部(附属脳機能研究施設) が神経薬理研究部と改称された。 | ○ソ連がアフガニスタンに侵攻 ○女性初サッチャー英首相誕生 ○初の共通一次大学入試 |

| 西暦 | 和暦 | 学 内 | 県 内・国 内・国 外 |
|------|----|---|--|
| 1980 | 55 | (8月) 医学部が旧附属病院建物に移転, 同建物は医学部本館となった。 | ○オリンピック第22回モスクワ大会 (日本不参加) ○冬季オリンピック第13回レークプラシッド大会 ○WHO第33回総会で天然痘撲滅宣言 ○イランイラク戦争勃発 |
| 1981 | 56 | (4月) 微生物学第二講座が設置された。 | ○初のスペースシャトル・コロンビア打ち上げ ○福井謙一ノーベル化学賞受賞 ○第6代県知事に沼田武就任 |
| 1982 | 57 | (4月) 神経精神医学講座が精神医学講座と改称された。 (9月) 附属動物実験施設が竣工した。 | ○HIV (ヒト免疫不全ウイルス) の発見 ○フォークランド紛争 |
| 1983 | 58 | (3月) 亥鼻地区体育館が竣工した。亥鼻地区サークル会館 (旧精神科病棟を改修) が完成した。 | ○東京ディズニーランドが開園 |
| 1984 | 59 | | ○オリンピック第23回ロサンゼルス大会 ○冬季オリンピック第14回サラエヴォ大会 |
| 1985 | 60 | | ○日本万国博覧会 (筑波万博) 開催 ○日本航空ジャンボ123便御巣鷹山墜落事故 |
| 1986 | 61 | | ○スペースシャトル・チャレンジャー号爆発事故 ○ソ連チェルノブイリ原発事故 |
| 1987 | 62 | (4月) 入学定員が20名減となり, 定員が100名となった。 (5月) 附属脳機能研究施設に神経生理研究部門 (時限10年) が設置された。 | ○大韓航空機爆破テロ事件 ○利根川進ノーベル医学生理学賞受賞 ○国鉄民営化でJR発足 ○千葉県東方沖地震 |
| 1988 | 63 | (4月) 附属環境疫学研究施設及び脳機能研究施設を拡充改組し, 附属高次機能制御研究センター (時限10年) が設置された。神経内科学講座 (部門の転換) が設置された。 | ○オリンピック第24回ソウル大会 ○冬季オリンピック第15回カルガリー大会 ○千葉都市モノレール開業 |
| 1989 | 1 | | ○天安門事件 ○ベルリンの壁崩壊 ○消費税 (3%) 開始 ○幕張メッセが開設 ○千葉県立中央博物館が開館 |
| 1990 | 2 | (6月) 小児外科学講座が設置された。 | ○東西ドイツが統合 ○米国で世界初の遺伝子治療 (アデノシンデアミナーゼ欠損症) ○大学入試センター試験の導入 |
| 1991 | 3 | | ○ソ連邦が解体し冷戦終結 ○湾岸戦争勃発 |
| 1992 | 4 | | ○オリンピック第25回バルセロナ大会 ○冬季オリンピック第16回アルペールヴィル大会 ○PKO協力法成立 (自衛隊海外派遣開始) ○バブル崩壊 ○雲仙普賢岳が噴火 ○千葉市が政令指定都市になる |
| 1993 | 5 | (4月) 臨床検査医学講座が設置された。 | ○欧州連合 (EU) が発足 ○連立政権細川内閣発足 ○サッカーJリーグが開幕 ○レインボーブリッジが開通 ○谷津干潟がラムサール条約登録湿地になる |
| 1994 | 6 | (3月) 医学専門課程, 医学進学課程が廃止された。 (6月) 救急医学講座が設置された。 | ○冬季オリンピック第17回リレハンメル大会 ○自社さ連立政権村山内閣発足 ○松本サリン事件 ○大江健三郎ノーベル文学賞受賞 |
| 1995 | 7 | | ○阪神・淡路大震災 ○東京で地下鉄サリン事件 |
| 1996 | 8 | (7月) 附属図書館亥鼻分館新館が竣工した。 | ○オリンピック第26回アトランタ大会 ○英で狂牛病騒動 ○らい予防法の廃止 ○薬害エイズ訴訟が和解 |
| 1997 | 9 | | ○香港が中国に返還される ○臓器移植法成立 ○消費税 (5%) ○東京湾アクアライン開通 |
| 1998 | 10 | (4月) 附属高次機能制御研究センターが廃止され, 大学院医学研究科に高次機能系専攻 (独立専攻) が設置された。 入学定員が5名減となり, 定員が95名となった。 遺伝子病態学 (ノボ ノルディスク ファーマ) 寄附講座が設置された。 (9月) 分子免疫学 (大正製薬) 寄附講座が設置された。 | ○冬季オリンピック第18回長野大会 ○トムソンら, ヒト胚性幹細胞 (ES細胞) 株樹立 |
| 1999 | 11 | | ○欧州通貨統合で「ユーロ」誕生 |

| 西暦 | 和暦 | 学 内 | 県 内・国 内・国 外 |
|------|----|---|---|
| 2000 | 12 | (4月) 学士入学(3年次編入学MD-PhDコース)制度(定員5名)が導入された。 | <ul style="list-style-type: none"> ○オリンピック第27回シドニー大会 ○九州・沖縄サミットを開催 ○白川英樹ノーベル化学賞受賞 ○介護保険法施行 |
| 2001 | 13 | <p>(3月) 大学院医学研究科が廃止された。附属肺癌研究施設が廃止された。</p> <p>(4月) 大学院医学研究院(6研究部門13講座60研究領域(形成外科学, 肝胆膵重粒子線治療学, 頭頸部腫瘍学, 眼科重粒子線治療学, 泌尿器科腫瘍重粒子線治療学, 神経疾患重粒子線治療学, 基礎病態学, 婦人科腫瘍重粒子線治療学, 免疫細胞医学, 分子統合生理学, 臨床遺伝子応用医学, 分子腫瘍学, 脳機能学が新たに設置された。)1連携講座を含む。), 大学院医学薬学府(4年博士課程3専攻, 後期3年博士課程1専攻, 修士課程2専攻)が設置された。</p> <p>医学部附属動物実験施設が大学院医学研究院附属動物実験施設へ移行された。薬学部附属薬用資源教育センターが大学院医学薬学府附属薬用資源教育センターへ移行された。</p> <p>医学部は講座制を廃止し, 学科目制に変更された。</p> <p>(9月) 大学院医学研究院にSRL環境健康医学寄附講座が設置された。</p> <p>(10月) 大学院医学研究院に治療探索研究(興和)寄附講座が設置された。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○9.11 アメリカ同時多発テロと米英によるアフガン空爆 ○愛媛県立水産高校えひめ丸が米原潜と衝突し沈没 ○野依良治ノーベル化学賞受賞 ○中央省庁再編(1府12省庁) ○第7代県知事に堂本暁子就任 |
| 2002 | 14 | <p>(1月) 大学院医学研究院に機能ゲノム学寄附講座が設置された。</p> <p>(3月) 附属看護学校, 附属助産婦学校, 附属診療放射線技師学校が廃止された。同三校の記念碑が建立された。</p> <p>分子免疫(大正製薬)寄附講座の存続期間が終了した。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○冬季オリンピック第19回ソルトレイクシティ大会 ○サッカーワールドカップ日韓大会 ○小柴昌俊ノーベル物理学賞受賞 ○田中耕一ノーベル化学賞受賞 ○初の日朝首脳会談 ○北朝鮮の拉致被害者が帰国 |
| 2003 | 15 | <p>(3月) 遺伝子病態学(ノボ ノルディスク ファーマ)寄附講座の存続期間が終了した。</p> <p>(9月) 平成15年度「21世紀COEプログラム」研究教育拠点形成費により, 「消化器扁平上皮癌の最先端多戦略治療拠点」が採択された。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○イラク戦争 ○ヒトゲノムプロジェクトの完成版が公開 ○新型肺炎SARSが世界中で流行 ○個人情報保護法成立 |
| 2004 | 16 | <p>(2月) 千葉大学医薬系総合研究棟地下1階, 地上10階が竣工し, 8階9階に「バイオメディカル研究センター」が設置された。</p> <p>千葉大学医薬系総合研究棟が竣工した。</p> <p>(3月) 医学部勝山セミナーハウス〔旧医学部臨海実験所(勝山寮)〕が1棟竣工した。</p> <p>(4月) 国立大学法人法の施行により, 国立大学は各大学ごとに法人化され, 国立大学法人千葉大学が設立された。</p> <p>(11月) 大学院医学研究院に心血管病態解析学寄附講座及び遺伝子治療寄附講座が設置された。</p> <p>(12月) SRL環境健康医学寄附講座の存続期間が終了した。千葉白菊会「献体の碑」が建立された。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○オリンピック第28回アテネ大会 ○スマトラ沖地震で大津波発生 ○イラク日本人質事件 ○新潟県中越地震 |
| 2005 | 17 | <p>(3月) 機能ゲノム学寄附講座の存続期間が終了した。</p> <p>(4月) 大学院医学薬学府に医学系の修士課程「医科学専攻(20名)」が設置された。</p> <p>医学研究院を母体として「社会精神保健教育研究センター」が, 学内共同教育研究施設として設置された。</p> <p>大学院医学研究院環境・高齢健康科学研究部門に研究領域としてあらたに和漢診療学が設置された。</p> <p>大学院医学研究院病態制御研究部門に分子腫瘍生物学(連携)講座が, あらたに設置された。</p> <p>大学院医学研究院生体情報臨床医学研究部門に放射線防衛機能学(連携)講座があらたに設置された。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○米南部でハリケーン「カトリーナ」被害 ○日本万国博覧会(愛知万博)が開催 ○JR福知山線脱線事故(尼崎市) ○郵政解散総選挙で自民党大勝 ○つくばエクスプレスが開業 |

| 西暦 | 和暦 | 学 内 | 県 内・国 内・国 外 |
|------|----|--|---|
| 2005 | 17 | (5月) 大学院医学研究院に先端和漢診療学寄附講座(ツムラ)が設置された。 | |
| | | (7月) 大学院医学研究院先端応用医学研究部門に研究領域としてあらたに機能ゲノム学が設置された。 | |
| 2006 | 18 | (1月) 大学院医学研究院先端応用医学研究部門に研究領域としてあらたに生命情報科学と臨床診断学が設置された。 | ○冬季オリンピック第20回トリノ大会 荒川静香が金メダル |
| | | (4月) 医学部に医学教育を専任で担当する医学教育研究室が設置された。 | ○改正教育基本法成立 ○防衛庁「省」昇格 |
| | | 大学院医学研究院発生・再建医学研究部門に免疫制御学(連携)講座があらたに設置された。 | ○ライブドア・村上ファンド代表らの逮捕 |
| 2007 | 19 | (5月) 大学院医学研究院に先端腫瘍治療医学研究部門臨床腫瘍学講座が設置された。 | ○米サブプライム問題で世界同時株安 |
| | | (6月) 柏の葉キャンパス地区に「予防医学センター」が学内共同教育研究施設として設置された。 | ○地球温暖化に警鐘ゴア氏等ノーベル平和賞受賞 |
| | | (7月) 大学院医学研究院先端応用医学研究部門に研究領域としてあらたに疾患生命医学が設置された。 | ○山中伸弥ら、トムソンらが人工多能性幹細胞(iPS細胞)株樹立 |
| | | 大学院医学研究院にがん分子免疫治療学(テラ)寄附講座が設置された。 | |
| | | (9月) 治療探索研究(興和)寄附講座の存続期間が終了した。 | |
| | | (10月) 亥鼻キャンパス内に千葉大亥鼻イノベーションプラザが医療系大学連携型起業家育成施設としては日本で初めて大学内に設置された。 | |
| 2008 | 20 | (4月) 医学部附属病院の新病棟が竣工し、ひがし棟1階に未来開拓センターが開設された。 | ○オリンピック第29回北京大会 |
| | | (6月) 循環型地域医療連携システム学(千葉)寄附講座が設置された。 | ○米大統領選オバマ氏大勝 初のアフリカ系大統領 |
| | | | ○南部陽一郎・小林誠・益川敏英がノーベル物理学賞, 下村脩がノーベル化学賞受賞 |
| | | | ○後期高齢者医療制度施行 |
| 2009 | 21 | (4月) 入学定員が10名増となり、定員が105名となった。 | ○新型インフルエンザ世界中で大流行 |
| | | (10月) 大学院医学研究院先端応用医学研究部門に研究領域としてあらたに心臓血管外科学が設置された。 | ○裁判員制度が始まる |
| | | 遺伝子治療寄附講座の存続期間が終了した。 | ○衆院総選挙で民主党圧勝 鳩山政権誕生 |
| | | | ○第8代県知事に鈴木栄治(森田健作)就任 |

平

成

新るのはな同窓会館設立
(千葉大学医学部創立135周年記念)
事業会名簿



シンボルマーク・鈴木弘樹氏 作成

新めのはな同窓会館設立(千葉大学医学部創立135周年記念)事業会名簿

(大学、同窓会における役職名は事業会発足時を基準としております)

1. 役員

| | | |
|-----|--------------------|---------------------|
| 会長 | 伊藤 晴夫 (同窓会会長) | |
| 副会長 | 徳久 剛史 (学部長・研究院長) | 河野 陽一 (附属病院長) |
| 顧問 | 磯野 可一 (元学長) | 井出 源四郎 (元会長, 元学長) |
| | 大藤 正雄 (元副会長) | 小幡 裕 (元副会長) |
| | 金子 敏郎 (元附属病院長) | 貫洞 一夫 (元副会長) |
| | 木村 康 (元学部長) | 国井 光智 (元副会長) |
| | 近藤 洋一郎 (元副会長, 学部長) | 高橋 英世 (元学部長) |
| | 高見澤 裕吉 (元附属病院長) | 谷口 克 (元学部長) |
| | 千葉 胤道 (元医学薬学府長) | 富田 裕 (元副会長) |
| | 長澤 仁一 (元会長) | 新美 仁男 (元附属病院長) |
| | 福田 康一郎 (元学部長・研究院長) | 藤澤 武彦 (元理事, 元附属病院長) |
| | 山浦 晶 (元附属病院長) | 村山 智 (元学部長) |
| | 守屋 秀繁 (元理事) | 渡邊 昌平 (元附属病院長) |
| | 渡辺 武 (元会長) | |

[50音順]

常任幹事

| | | |
|------|----------------|----------------|
| 幹事長 | 寺澤 捷年 (同窓会副会長) | |
| 副幹事長 | 大井 利夫 (同窓会副会長) | 済陽 高穂 (同窓会副会長) |
| | 齋藤 康 (理事) | |

【同窓会】

| | |
|--------------|--------------|
| 児島 三郎 (秋田) | 柴崎 晃 (栃木) |
| 鹿山 徳男 (群馬) | 三宅 和夫 (茨城) |
| 伊藤 敏夫 (埼玉) | 大濱 博利 (千葉) |
| 角田 隆文 (東京) | 森 豊 (神奈川) |
| 横山 宏 (山梨) | 布施 秀樹 (北陸) |
| 熊谷 信夫 (長野) | 佐藤 通 (静岡) |
| 森田 弘之 (中京) | 上田 真喜子 (阪奈和) |
| 牧野 英一 (四国) | 谷川 久一 (九州) |
| 古謝 景春 (沖縄) | 税所 宏光 (参与) |
| 瀧口 正樹 (庶務会務) | 道永 麻里 (事業会務) |
| 鈴木 信夫 (事業会務) | |

【後援会】後援会会長 (歴代)

| | |
|-------|-------|
| 小林 史朗 | 武内 重康 |
| 青墳 信之 | |

【学部教員】

| | |
|----------------|----------------|
| 栗山 喬之 (前病院評議員) | 中谷 晴昭 (評議員) |
| 西野 卓 (病院評議員) | 丹沢 秀樹 (副研究院長) |
| 野田 公俊 (副研究院長) | 白澤 浩 (副学部長) |
| 伊豫 雅臣 (副学部長) | 市川 智彦 (副病院長) |
| 宮崎 勝 (副病院長) | 山本 修一 (副病院長) |
| 田邊 政裕 (副病院長) | 野村 文夫 (財務副委員長) |

【事務部幹事】

事務長(歴代)

高柳由和 清水富雄 佐川光男
佐瀬好弘

専門員, 副事務長(歴代)

鈴木定雄 園部和男 深野英夫

専門職員, 総務係長(歴代)

土屋正勝 園部和男 中村豊

専門職員, 経営係長(歴代)

吉田正彦 千葉真也

2. 事業運営委員会

| | | | | | | | |
|-------|------|-------|--|-------|--|--|--|
| 総括責任者 | 伊藤晴夫 | | | | | | |
| 委員長 | 寺澤捷年 | | | | | | |
| 副委員長 | 大井利夫 | 宮崎勝 | | 済陽高穂 | | | |
| 委員 | 市川智彦 | 伊豫雅臣 | | 岩瀬博太郎 | | | |
| | 大濱博利 | 小幡裕 | | 栗山喬之康 | | | |
| | 河野陽一 | 小林史朗 | | 齋藤浩 | | | |
| | 佐伯直勝 | 清水栄司 | | 白澤口正樹 | | | |
| | 鈴木信夫 | 高林克日己 | | 瀧口久剛 | | | |
| | 田邊政裕 | 丹沢秀樹 | | 徳久卓 | | | |
| | 中島裕史 | 中谷晴昭 | | 西野卓 | | | |
| | 野田公俊 | 野村文夫 | | 道永麻里 | | | |
| | 山本修一 | 吉原俊雄 | | 渡辺武 | | | |

3. 財務委員会

| | | | |
|------|------|----------|----------|
| 委員長 | 寺澤捷年 | [2代:野村文夫 | 3代:田邊政裕] |
| 副委員長 | 大井利夫 | 佐伯直勝 | 野村文夫 |
| 委員 | 山本修一 | | |
| | 大濱博利 | 白澤浩 | 道永麻里 |
| | 済陽高穂 | | |

4. 建物・設備等整備委員会

| | | | |
|------|------|-----------|------|
| 委員長 | 田邊政裕 | [初代:伊豫雅臣] | |
| 副委員長 | 市川智彦 | 寺澤捷年 | 済陽高穂 |
| 委員 | 伊豫雅臣 | 岩瀬博太郎 | 瀧口正樹 |
| | 角田隆文 | 野村文夫 | 道永麻里 |
| | 吉原俊雄 | | |

5. 記念誌出版委員会

| | | | |
|------|------|-------|------|
| 委員長 | 瀧口正樹 | | |
| 副委員長 | 大濱博利 | 中谷晴昭 | |
| 委員 | 清水栄司 | 高林克日己 | 田邊政裕 |
| | 中島裕史 | | |

6. 同窓会, 事業会事務職員(歴代)

| | | |
|-------|--------|-------|
| 清水久美子 | 波多野みち子 | 佐藤美江子 |
| 渋谷公江 | 高木賢司 | 作本美和 |
| 小倉志穂 | 高野晴美 | |

資料提供，編集等にご協力いただいた皆様

- 岩 下 久 夫
- 柏 木 崇 人
- 加 藤 博 仁 (故人)
- 黒 川 登
- 田 中 朋 久
- 古 川 芳 久
- 和 田 博 夫

[50音順，敬称略]

- 地域の歴史文化勉強会
- 千葉県文書館
- (社)千葉県観光協会
- 千葉市広報課
- 千葉市市民局市民部市民総務課
- 千葉市立郷土博物館
- 成田山仏教図書館
- 船橋市西図書館
- (有)サン・プランニング

- 千葉大学企画総務部総務課広報企画室
- 千葉大学工学部建築学科栗生明・鈴木弘樹研究室
- 千葉大学附属図書館・同亥鼻分館
- 千葉大学医学部事務部
- 千葉大学医学部附属病院事務部
- 千葉医学会
- 千葉大学ゐのはな同窓会

● 口絵について ●

- 亥鼻キャンパス全景

2008年10月撮影の航空写真。(千葉大学企画総務部総務課広報企画室提供)

- 長尾精一初代校長・荻生録造二代校長レリーフ

長尾は1880年(明治13年)公立千葉病院長より、荻生は1902年(明治35年)千葉医学専門学校長よりその職にあり、両校長の銅像が1909年(明治42年)、1911年(明治44年)に建立されたが、戦時中の金属供出により基柱のみ残された。1960年(昭和35年)創立85周年を記念し、一基の台座に両校長のレリーフを掲げ、現正門奥に移設した。現存する最古のモニュメントの一つである。本誌473頁参照。

- 新みのはな同窓会館完成イメージ

附属図書館亥鼻分館横に建設計画。2013年に竣工予定、多目的利用が可能な最新の施設の誕生が待たれる。(千葉大学工学部建築学科栗生明・鈴木弘樹研究室 田中朋久氏提供)